

集書目録

—奈良にかかわる近代文学—

A list of book-collection on nara's literature

浅 田 隆

Takashi ASADA

この「目録」は平成2（'90）年度文学部特別研究プロジェクト「大和の風土と文化に関する学際的研究」の一環としての、「奈良にかかわる近代文学」関連文献蒐集内容の報告である。集書点数51点（雑誌2点を含む58冊）。内訳は詩歌関係28点、評論3点、随筆8点、小説12点である。

[集書方針] 奈良県出身の文学者の著作および奈良県下を舞台にした文学作品を対象とし、この方針に関係する周辺のもの（例 渋江周堂『恍惚』）を若干含む。

[凡例] 1. 「目録」の配列は、詩歌・評論・随筆・小説の順とし、同ジャンルの中では発行年次順とした。ただし雑誌は同ジャンルの最後に記した。

2. [内容]として、当該書籍収録作品の概要および簡単な書誌的事項を記した。頁数については原則として本文最終ページの数字を記す。また書籍のサイズは書籍本体の表紙のサイズとし、「横×縦」の形で表示する。単位はミリ。

3. 備考として※印を付し、当該書籍に収録された作品のうち奈良に関するものを示し、奈良関連の作品がないものについては、当該書籍と奈良の関係について略記した。

有本芳水『少年少女詩集 芳水詩集』（詩集） 大正3.3.25 実業之日本社刊

[内容] 序「旅より旅へ」「思ひ出」「漂白」「ふるさと」「わが来し方を見かへれば」などの章に別れ、詩120篇 挿画3葉（竹久夢二） 302頁110×149

※「旅より旅へ」に「奈良より」「法隆寺」などを収める。

有本芳水『詩集 ふる郷』（詩集）大正7.3.20 実業之日本社刊

[内容] 序「幾山川」「少年時」などの章に別れ、詩104篇 挿画3葉（平福百穂・名取春仙）川端龍子装幀 258頁110×150

※「幾山川」に「嫩草山」を収める。

阪中正夫『阪中正夫詩集・六月は羽搏く』（詩集） 大正13.12.15 抒情詩社刊

[内容] 序（白鳥省吾） 自序 詩38篇 詩劇1篇 肖像デッサン1葉 157頁135×139

箱

※著者は和歌山県出身であるが、「関西詩人協会」の松村又一・北村信昭（いずれも奈良県人）との親交が深く、昭和11年には奈良に居住。松村をモデルとした戯曲「馬」や高畑族を描いた小説「玉菊」などがあり、詩集には具体的な地名は見えないが、奈良との関わりが深い。

渋江周堂『恍惚』（詩集） 昭和2.12.1 重誠舎刊

〔内容〕詩18篇 序 あとがき 83頁126×185

※後に記す「豚詩社」刊行の詩集『四次元準立方体詩派宣言』の詩人の詩集として。

西谷勢之介『第三詩集 夜明を待つ』（詩集） 昭和6.6.5 碧落社刊

〔内容〕著者自筆献詩 ABCに別れ、詩82篇 後記 恩地孝二郎装幀 デッサン1葉
127頁130×142 箱

※著者は奈良県法隆寺生まれ。

渋江周堂『四次元準立方体詩派宣言』（詩集） 昭和13.7.10 豚詩社刊

〔内容〕序詩 四次元準立方体詩派宣言 詩16篇 写真1葉 カット3葉 和紙袋綴洋装本
71頁205×271 箱

※「豚詩社」は奈良県吉野郡大淀町下淵の池田克己宅にあった結社で、著者渋江は後に記す『PIG（豚）』の同人である。本書裏表紙に池田の跋文がある。また装丁・カット・写真は池田の手になる。（奥書に「限定自家版30冊普通版270冊の内本書は其第183冊也」とある）

北原白秋『香の狩獵者』（詩文集） 昭和17.9.10 河出書房刊

〔内容〕はしがき 詩歌 詩文 短唱 小唄など56篇 後記 写真2葉 215頁136×188
箱

※「那羅に」「奈良篇」「夢殿の萱」などが奈良に関わる。

高村光太郎『高村光太郎全詩集』（詩集 編集尾崎喜八・草野心平ほか） 昭和41.1.15 新潮社刊

〔内容〕「『道程』以前」（明治40～43）以後「『典型』以後」（昭和25～30）までの詩を網羅
編集後記 詩作品年譜 折込付録 1022頁156×214 箱

※詩集『大いなる日に』に「太子筆を執りたまふ」などの奈良関連の詩がある。

野長瀬正夫『夕日の老人ブルース』（詩集） 昭和56.3.21 かど創房刊

〔内容〕詩49篇 エッセイ6篇 あとがき 163頁155×216 箱

※奈良県吉野郡十津川村南吉野に生まれた（明治39.2.8）野長瀬正夫の詩集である。

詩文誌『PIG（豚）』1～4号 大和豚詩社刊 昭和11.10.10～12.11.1

〔内容〕奈良県出身の詩人池田克己・和良郁夫らのはか波江周堂・上林猷夫・佐川英三他8人の同人の詩・文を掲載し、各号平均45頁193×218の雑誌

※発行所を奈良県下の下市口の池田克己宅に置き、編輯兼発行者も池田克己。昭和11年11月～18年10月（途中『現代詩精神』と改題され、戦後の『日本未来派』の底流となる。）にかけて刊行されたが、全発行冊数は未詳。「東洋的風土性とあくの濃い庶民性」が特徴であるが、奈良の近代文学や日本の近代詩史を考える上で貴重。

詩誌『斜線』1号（昭和26.9.1）4号（昭和28.9.1）5号（昭和29.6.10）

〔内容〕1号活版32頁（編集兼発行人原田伍亮 現代詩研究会斜線クラブ発行）4号孔版15頁（編集兼発行人原田子寛 斜線CLUB発行）5号孔版21頁（編集兼発行人原田子寛 斜線クラブ発行）いずれも146×211

※奈良市三条町の菊岡義政方に発行所を置く、奈良の詩の同人誌。

佐々木信綱『新月』（歌集） 大正9.9.25（第3版 初版は大正1.12.4）博文館刊

〔内容〕短歌300首 152頁134×190

※「女の童柄香爐ささげまうのぼる長谷の御寺の山さくら花」などを収める。

与謝野晶子『春泥集』（歌集） 大正13.7.15（初版明治44.1.23の第15版）金尾文淵堂刊

〔内容〕上田敏の跋文「春泥集のはじめに」 短歌613首 挿画1葉 206頁131×198 箱

※「わが二十初瀬の御寺のゆく春の石だたみ踏みものを思へる」を収める。

南正胤『おいらはプロレタリア』（歌集） 昭和5.4.20 紅玉堂書店刊

〔内容〕序 不定型短歌（短唱と見るべきもあり）10章に別れ212篇 111頁127×188

・※著者は奈良県宇陀郡榛原町生まれ。

鳥船同人編『鳥船批評集』（短歌批評） 昭和12.12.15 壬生書房刊

〔内容〕まえがき 歌会批評8回分 孔版170頁151×208

※鳥船同人は折口信夫の「子飼」の国学院大学学部出身者で組織された詩歌の結社で、同人の短歌に対して口頭で折口が批評したものを同人が文字に起こしたもの。

高安やす子『歌集 樹下』（歌集） 昭和16.11.25 墨水書房刊

〔内容〕アララギ叢書第59編 序（齋藤茂吉） 昭和9年～16年の短歌457首 あとがき 229頁136×188 箱

※吉野山5首 大和行13首 吉野離宮5首 大和5首などを収める。

高田保馬『洛北集』(歌集) 昭和18.10.15 甲鳥書林刊

[内容] 自序 昭和6年以後18年までの短歌約460首 跋 223頁132×187

※「室生寺役の小角はるかなれや昔を継ぎてたえぬともし火」ほかを収める。

藤井春洋編『鳥松(新集)』(詩歌・文集) 第1集・第2集昭和19.4.20(初版18.5.20)

第3集昭和19.12.10 青磁社刊

[内容] 第1・2集の編者は藤井春洋、第3集は折口信夫。第1集詩文・歌文・批評文68篇
追ひ書き 写真1葉 232頁、第2集66篇 追ひ書き 写真1葉 226頁、第3集79篇 追
ひ書き 写真1葉 362頁いずれも139×187

※第1集には折口の詩「飛鳥」があり、奈良市漢国神社宮司梅木春和の短歌集「馬酔木の下」
を収める。第2集には折口「古事記の空古事記の山」や「飛鳥風」(柏木喜一)「神垣のうち」
(梅木) などをおさめる。第3集には折口の「万葉旅行独案内」や「望楼所思」(梅木)「奈
保山」(永野周)「万葉行」(高階広道)などを収める。

前川佐美雄『歌集紅梅』(歌集) 昭和21.7.20 白井書房刊

[内容] 短歌245首 後記 135頁107×153 著者署名入り

※「奈良早春」13章に「ひんがしの黒く焼かれし嫩草山に午後の日の照る寒きひととき」な
どを収める。

安田青風『歌集 街空』(歌集) 昭和22.4.10 文化昂揚社刊

[内容] 表紙見返しに著者の献歌・署名 短歌156首 後記 63頁128×183

※「すでにして春のいろなる夕がすみ金剛山かづらき二上の山」など 吉野にて3首 秋の
水2首 朝粥1首を収める。

高村光太郎『白斧』(歌集) 昭和22.11.15 十字屋書店刊

[内容] 短歌257首 コロタイプ版著者墨蹟4葉 和紙洋装150頁187×243 箱

※「真金掘り黄金の窟にあひしごと奈良には藝のよろこび満つる」などを収める。

齋藤茂吉『石泉』(歌集) 昭和26.6.15 岩波書店刊

[内容] 昭和6～7年の短歌995首 後記 405頁135×188

※「せまりつつ苦しみ生きしもろもろの救はれにける木の佛これ」(佛像讃歌)などを収め
る。

高浜虚子『五百五十句』(句集) 昭和18.8.25 櫻井書店刊

[内容] 序 昭和11年～15年の俳句594句 和紙袋綴洋装313頁157×215 箱

※「大佛に到りつきたる時雨かな」などを収める。

鈴木蓑花『鈴木蓑花句集』（句集） 昭和22.4.30 笛発行所刊

〔内容〕 遺稿集蓑花句集序（高浜虚子） 春夏秋冬をそれぞれ時候・天文・地理・人事・動物・植物に分けて編集 鈴木菊女句集（7頁） 鈴木ひなを句集（10頁） 後記（蓑花句集刊行会代表柏崎夢香） 全130頁130×187

※「大和路や遥の塔も花の上」（春、植物、花）などを収める。

高浜年尾『年尾句集』（句集） 昭和32.12.25 新樹社刊

〔内容〕 虚子の序 序 大正5年から昭和30年までの俳句約1000句 季題索引 226頁132×188

※「夕べ着きて吉水院の余花かな」などを収める。

石原八束『秋風琴』（句集） 昭和38.8.20 書肆ユリイカ刊

〔内容〕 序にかへて（詩） 昭和12年から30年までの俳句600句 解説（飯田龍太） 写真1葉 著者自筆献呈署名 献句 後記 247頁165×197 箱

※「別れ霜吉野の檜山たたなはる」などを収める。

角川源義『句集 冬の虹』（句集） 昭和47.11.15 東京美術刊

〔内容〕 第4家集 昭和43年から47年までの俳句579句 あとがき 写真1葉 207頁130×144 箱

※「修二会」に「修二会の奈良に夜来る水のごと」などを収める。

岡井省二『山色』（句集） 昭和58.6.10 永田書房刊

〔内容〕 岡井省二第三句集で昭和56年～58年の俳句350句 あとがき 193頁137×194 箱

※「東大寺大風にある取木かな」などを収録。

保田與重郎『英雄と詩人』（評論集） 昭和11.11.25 人文書院刊

〔内容〕 評論11篇を収録。367頁136×192 箱

※著者は奈良県桜井市生れ。

保田與重郎『エルテルは何故死んだか』（評論） 昭和14.10.2 ぐろりあ・そさえて刊

〔内容〕 評論「エルテルは何故死んだか」「ロッセの弁明」2篇を収録 140頁130×192箱

※著者は奈良県桜井市生れ。

安田章生『現代短歌ノート』（評論集） 昭和23.5.1 有文堂刊

〔内容〕 序 評論22篇 後記 142頁128×188

※著者が奈良市法蓮北町在住時代の書。

金尾種次郎編『畿内行脚』（随筆集） 大正8.9.28 金尾文淵堂刊

〔内容〕20氏の随筆43篇 挿画61葉 959頁104×179 箱

※与謝野晶子「大和」 石井露月「西京雜記」 河東碧梧桐「吉野紀行」 薄田泣菫「西の京」 高安月郊「朱の都」 松瀬青々「花見杖」「練供養」「五条町の二日」「飛鳥吟行」「薬師寺より西大寺迄」 青木月斗「当麻行」 中澤弘光「奈良の旅」などを収める。

龍井孝作『折柴随筆』（随筆集） 昭和10.9.20 野田書房刊

〔内容〕自序 「京都奈良にて」「飛驒雜記」「八王子にて」「乾燥批評」「釣魚雜筆」の5章からなり、52篇を収める。直筆署名あり 351頁138×194 箱

※「京都奈良にて」の中の「奈良の春」「井戸」「謡のけいこ」「奈良より」「不易流行」などが奈良と関わる。

龍井孝作『風物誌』（随想集） 昭和13.8.25 砂子屋書房刊

〔内容〕随想等28篇 後記 263頁138×193 箱

※「志賀直哉対談日誌」「文学的自叙伝」「時雨艸々」「五條の鮎狩」「室生寺の秋」「素人の一手」が奈良に関わる。

中谷孝雄『随筆時代祭』（随筆集） 昭和16.8.1 文明社刊

〔内容〕はしがき I 随筆（15篇） II 感想（10篇） III 小品（7篇） 304頁130×187

※II 感想の「乱世の紀行」「吉野と嵯峨」「吉野紀行」などが奈良に関わる。

織田作之助『大阪の顔』（随筆集） 昭和18.9.20 明光堂書店刊

〔内容〕随筆19篇 後記 215頁128×182

※「奈良にありし事」を収める。

亀井勝一郎『古典美への旅』（古美術随想） 昭和40.3.25 主婦の友社刊

〔内容〕随想21篇 後記 写真56葉 174頁133×187

※「盲目の聖者」「豊頬と微笑」「古代の美女」「天人の舞楽」「乱世に生きる二つの表情」「誕生仏」「能面について」「塔のいのち」「滅びゆく古都」「無名の人々の創造力」「夢殿の秋」が奈良と関わる。

島村利正『随筆集多摩川断想』（随筆集 編集谷田昌平） 昭和58.11.25 花屋社刊

〔内容〕遺作集で生涯唯一の随筆集 5部構成 I（7篇） II（14篇） III（8篇） IV（6篇） V（14篇） 解説（谷田昌平） 島村利正著作目録 初出一覧 227頁134×194 箱

※「奈良歩き」「奈良の思い出」「香薬師」「奈良断想」「昭和はじめの奈良の地図」「奈

良の宿」「典雅な唐招提寺鼓楼」などが奈良に関わる。

森教『月山抄』（回想集） 昭和60.9.30 河出書房新社刊

〔内容〕回想27篇 230頁137×194

※「覚醒」「涼風」「雷雲」「清流」「星霜」「縹緲」「青嵐」「瑜伽」「青楼」「鳴動」「竜宮」「飛天」「半眼」「天女」「北溟」などが奈良に関わる。

太田三郎『鐘情夜話』（短編小説集） 大正7.6.15 富田文陽堂刊

〔内容〕短編や掌編49篇 前書 挿画49葉 261頁118×176 箱

※「少将と若草」「井出の下紐」「女夫蝶」「鹿の声」などが奈良と関わる。

志賀直哉『萬曆赤絵』（短編小説集） 昭和11.11.23 中央公論社刊

〔内容〕短編10篇 アフォリズム 手紙感想、扉・箱背・背の文字は梅原龍三郎 装幀志賀直哉 274頁158×228 箱

※奈良在住中の出版で、直接奈良の生活や奈良を素材に描いた「萬曆赤絵」「朝晝晩」「日曜日」「犬」「鷗風」以外の作品も奈良の生活およびその延長上に構想されたものがある。また、「小林多喜二への手紙」は奈良在住中の志賀への小林多喜二の手紙に対する返事で、志賀の小林多喜二に対する態度がうかがわれる。

龍井孝作『積雪』（短編集） 昭和13.12.18 改造社刊

〔内容〕短編17篇 後記 323頁136×192 箱

※「たぬき」「奈良公園にて」「生れ在所」などが奈良を舞台にしている。

織田作之助『月照』（長編小説） 昭和17.7.10 全国書房刊

〔内容〕全8章 289頁133×187

※第7章に奈良に関する記述がある。

織田作之助『猿飛佐助』（短編小説集） 昭和21.1.30 三島書房刊

〔内容〕短編小説7篇 あとがき 251頁129×187

※「猿飛佐助」が奈良と関わる。

堀辰雄『大和路・信濃路』（小品集） 昭和29.7.5 人文書院刊

〔内容〕小品8篇 ノオト 神西清の跋 写真26葉 217頁188×178 帙式箱

※「大和路」に収録された小品「十月」「古墳」「瑠璃寺の春」「死者の書」およびノオトが奈良に関わる。

阿川弘之『雲の墓標』（長編小説） 昭和32.1.15 新潮社刊

〔内容〕昭和18年12月12日から20年6月29日にかけての日記体の作品。203頁132×185

※昭和19年1月7日が奈良に関わる。

大岡昇平『将門記』（短編小説集） 昭和41.7.11 中央公論社刊

〔内容〕短編小説集7篇 あとがき 地図1葉 232頁135×197 箱

※「将門記」以外はすべて幕末物歴史小説で、「天誅」「拳兵」「吉村虎太郎」の3篇は吉村虎太郎が十津川村郷士を糾合して拳兵した天誅組に関する作品。

島村利正『奈良登大路町』（短編小説集） 昭和47.5.20 新潮社刊

〔内容〕小説8篇 あとがき 発表誌一覧 218頁135×197 箱

※著者は少年時代を奈良飛鳥園に過ごした。「哀しい頬骨」「庭の千草」「奈良登大路町」が奈良に関わる。

大岡昇平『花影』（長編小説） 昭和47.9.15 青娥書房刊

〔内容〕花影 あとがき 中扉見返しにダンテ『神曲』の「煉獄篇第五歌」からの2行の引用がある。挿画3葉（朝倉撰） 装幀宇野千代 153頁187×264 夫婦箱 段ボール帙（限定450部の内第139番 作者直筆署名入り）

※第2章最後に主人公葉子と松崎の吉野の観桜が3年前のこととして、わずかに11行描かれるだけながら、作品の中では重い。

大岡昇平『天誅組』（長編歴史小説） 昭和49.5.28 講談社刊

〔内容〕全18章 あとがき 476頁141×195

※「天誅組」を描こうとした作品ではあるが、大岡の死去によって、未完に終わった。「天誅組」についての記述は「浪人人別」「木屋町三条」「拳兵まで」の各章に見られるが、所謂「大和義拳」自体については、作品最終章が「拳兵まで」であるように、拳兵前夜までの物語である。

島村利正『青い沼』（短編小説集） 昭和50.12.5 新潮社刊

〔内容〕短編小説5篇 あとがき 発表誌一覧 222頁135×197 箱

※「北山十八間戸」が奈良に関わる。